

特定非営利活動法人

Alternative People's Linkage in Asia

APLA

2013年度事業報告

6年目を迎えたAPLA。これまでテーマとしてきて「農を軸にした地域づくり」を継続して海外のパートナーたちと取り組んできました。また、2013年度からは、民衆交易の意味を見つめ直し、未来へつながる糸口を見つげる試みを始めました。

海外パートナーのフィリピン・ネグロス、東ティモールでは若手世代の育成を精力的に進めてきました。彼らと共にまいた種が、少しずつ芽を出し始め、今後地域や現場を担うリーダーに育ってくれることが期待されます。

原発事故後に出会い、交流を深め、福島地域再生について共に考え、話を重ねてきた二本松においても、これからの地域おこしや自然エネルギーの活用の道筋の取っ掛かりが見えてきました。地域の主体となる人たちと寄り添いながら有機的な関係性をつくってきたこれまでの過程が、少しずつではありますが形になりつつあります。

2013年度に始めた新たな取り組みとして、(株)オルター・トレード・ジャパンから発売されたインドネシア、パプア州のカカオを使ったワークショップを全国各地で精力的に実施しました。様々な地域で活動する人たちとのたくさんの出会いがあり、パプアのこと、民衆交易のことを知ってもらう機会をつくることのできたことに加え、APLAもたくさんのエネルギーやアイデアをもらうこととなりました。民衆交易の新たなファンをつくっていくためにも、学び多き一年となりました。

海外プロジェクト支援事業

フィリピン・ネグロス島

カネシゲファーム・ルーラルキャンパス (KF-RC) の卒業生たちの地域での実践が始まりました

2009年に設立したKF-RCですが、当初より、農場の自立に加えて、研修生の出身地域がサテライト農場となり、KF-RCで実践している循環型農業が実現できるようと構想されていました。農場で研修を終えた卒業生たちへのサポート制度を作り、試みが始まっています。

- KF-RCで研修を終えた卒業生たちは、サポート制度を活用し、養豚を中心とした循環型農業を始めています。仕組みとしては、まず卒業生の両親と相談し、卒業生が農業に取り組める場所を選定します。その後、卒業生家族とKF-RCスタッフ、研修生で豚舎を建設します。他の研修生にとっては、これも研修であり、自分が地元に戻った時のイメージが持てるような経験づくりを兼ねています。豚舎には、バイオガスタンクや消化液（液肥）タンクも設置し、液肥を田畑へ還元できるようにします。BM活性水（注1）も、KF-RCから定期的に持ち運びます。豚舎が整備された段階で、3ヵ月にわたり4頭ずつの子豚と餌をKF-RCがローンで実物提供し、卒業生は合計12頭の子豚を肥育します。4ヵ月目に最初の月に届けた豚を販売し、その売り上げで子豚代と餌代をKF-RCに返済していく仕組みです。このことにより、卒業生が定期的にKF-RCとつながることができ、技術的なサポートも実施されています。
- 卒業生サポート制度を最初に活用したバイス村のジョナンくん。2013年4月に卒業し、5月から子豚の肥育を始めています。8月から4頭育てた豚を出荷しています。最初の3ヵ月の収入が2万4000ペソ（約5万6000円）。近隣の農家から比べると大きな収入となりました。ジョナンくんは、他にもヤギ、鶏、アヒルなどたくさんの動物も育てています。雨季にはお米を、乾季には野菜を栽培しています。豚の糞尿を生かすバイオガスタンクからの消化液を活用して施肥をする、循環型農業を実践しています。今では一家の農業を任せられるようになり、お父さんは一線を退いたとのこと。以前は問題児であったようですが今はよく働き、家族を助けるようになりました。
- KF-RCの農場では、現在7人のスタッフが働いています。豚の販売計画や作物の作付なども、消費者のニーズや傾向、季節的な動向を見ながら計画を立てられるようになってきました。今後は、計画と実績が伴っているかなど、より綿密な運営を実行する体制づくりをしていきます。
- 2013年1月からKF-RCの研修生5期生の研修が始まっています。パランゴンバナナ生産者協会（BGA）元メンバーの子弟2人、ネグロスで活動するAID財団の活動地域から2人、ヨランダ台風被災地から1人、KF-RCスタッフの第1人の計6人が参加しています。
- 2013年11月にフィリピン・ビサヤ地方を襲ったヨランダ台風。ネグロス島北部も被害を受けました。キリスト教の修道会レコレトス会と一緒にKF-RCも台風の被災者の救援活動に参加しています。

注1：BMW技術（バクテリア・ミネラル・ウォーター）から作られる活性水。BMW技術とは、バクテリアとミネラルの働きをうまく利用し、土と水が生成される生態系のシステムを人工的に再現する技術のこと。



KF-RCのスタッフたち。作付や販売計画をみんなで議論しているところ



卒業生のジョナン君。自分の豚舎の前で

フィリピン・北部ルソン

BMW 技術についての学習会が実施されました

パートナーの CORDEV が現在拠点としているイザバラ州カウヤン市周辺は、遺伝子組み換えトウモロコシ（BT コーン）の作付が急速に拡大し広がっている地域です。この地域で有機農業を推進することには大きな意味を持ちますが、現場の危機意識に対応するような具体的な活動はまだありません。

この間、APLA では BMW 技術協会と連携しながら、BMW 技術を活用した循環型農業の普及を進めていますが、まずは、なぜ今循環型農業が必要なのか、BMW 技術はどのような技術なのかを考えてもらう学習会を実施しました。



柑橘を生産するギルバート農場にて学習会を実施



ネグロス島カネシゲファームの実践を北部ルソンの人たちに伝えました

インドネシア

エコシュリンプ生産者と一緒に原発について考えるセミナーを開催しました

インドネシア・東ジャワにあるエコシュリンプの産地、シダルジョとグレスックの対岸には、インドネシアの原発建設候補地のひとつであるマドゥラ島があります（100キロ圏内）。2014年3月1日、オルター・トレード・インドネシア社（ATINA）従業員とエビ生産者の一部が2013年に立ち上げた KOIN（インドネシア保全）という NGO と協力して、ATINA 従業員やエビ生産者を対象に、福島第一原発事故後の日本の状況や APLA が続けてきた福島での活動を共有し、原発への理解を深めるセミナーを開催しました。エビ生産者約 20 人、ATINA 加工労働者約 80 人が集まり、活発な意見交換もおこなわれました。



福島の実状に真剣に耳を傾けるエビ生産者たち



ATINA社の従業員たちへのセミナーは仕事が終わってからの開催となりました

東ティモール

研修を終えた若者たちを中心に、地域での多様化の取り組みが進んでいます

- コーヒー生産者グループ Fitun Caetano (フィットウン・カイトノ) と GATAMIR (ガタミル) から 2012 年 11 月より一年間の実地研修に参加した 4 人が研修を終え、2013 年末に地域に戻りました。4 人は、研修中に学んだ持続可能な農業・食品加工などに関する知識や技術などを、地域でグループのメンバーに共有しながら、積極的に地域での活動を進めています。具体的には、果樹や野菜の他品種栽培、傾斜地での段々畑の整備など、少しずつですが確かな積み重ねが見え始めています。
- GATAMIR では、女性メンバーによる柑橘ワインづくりが大きな成果をあげました。自分たちで出資した 115 ドルを元手に、地域で収穫した柑橘類を使用して 115 リットルの柑橘ワインを製造・販売、約 200 ドルの利益を生み出しました。また、シーズン終了後にその利益をグループメンバーに対して貸し付けるという自主的な取り組みも始まり、女性たちにも大きな自信が生まれています。
- 2013 年度は、アグロフォレストリー（森林農法）の導入による循環型社会 / 地域経済の構築をめざして、エルメラ県のコーヒー生産者との取り組みを進めました。8 月には、現地 NGO・Permatil（パーマティル）のエゴ・レモスさんによるアグロフォレストリーに関するセミナーとフィールド調査、9 月にはインドネシアのコーヒーカカオ研究所の専門家による剪定のワークショップを実施しました。さらに、コミュニティでのフィールドリサーチを実施したエゴさんの提案を受けて、11 月には、GATAMIR で水源保全のための 4 日間のプログラムを実施しました。参加者や村内の反応も大変よく、指導にあたったエゴさんからも「東ティモールにとって素晴らしい事例となるだろう」と高い評価をもらいました。2014 年度には、引き続き別の地域で同様のプログラムを展開し、事例を積み重ねていきたいと考えています。

※地球環境基金（独立行政法人環境再生保全機構）の助成を受けて実施しました。



女性メンバーによるワインづくりの様子



地域の水源保全のためのプログラムを実施しました

互恵のためのアジア民衆基金 (APF)

APF 第 4 期総会は、10 月 27 日にソウルで開催されました。その前日にはハンサリム生協ソウル支部の収穫感謝祭に参加しました。

総会の協議では、CORDEV が融資返済が困難になった状況をめぐり、返済ができない場合の取り扱いルールを明確にした方がよいという意見が出されました。それに対して、それぞれの事情に寄り添って判断するのがよいとの事務局からの意見も出され、今後も検討を継続することになりました。また、APF として、現地の組織に寄り添っていくことを強化するために、新たに「幹事社員制度」を設け、一定の融資案件（原案は年間各 200 万円の範囲内）について任せることが提案されました。協議の結果、監事社員制度を設ける方向性は了承され、各監事社員候補が持ち帰って内部討議をし、より具体的な内容（権限、責任など）の検討を進めることになりました。

※互恵のためのアジア民衆基金：南の民衆と北の市民の連帯・交流の新しい形として、南の民衆の経済的自立に必要な資金を、北の市民が基金に寄付し、それを低利で必要とする団体や地域社会に融資しています。

※監事社員候補には、フィリピンのオルター・トレード社 (ATC)、インドネシアのオルター・トレード・インドネシア社 (ATINA)、パレスチナのパレスチナ農業復興委員会 (PARC) / パレスチナ農業開発委員会 (UAWC) が提案されました。

※ 2013 年度新規融資先は、フィリピン・ミンダナオ島のアラー溪谷開発財団 (AVDFI) で、ギフトセンターの立ち上げ資金としての貸付け。観光地であるレイクセブで出店し、バランゴンバナナの製パンなどの加工品や少数民族であるオボ族の工芸品を販売し、バランゴン生産者や少数民族の経済的自立、地域の活性化を促します。

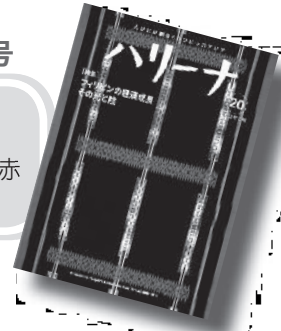
広報・出版事業

機関誌ハリーナ (Vol.2.20 号～ 23 号発行)

2013 年 5 月 20 号

【特集】フィリピンの経済成長 その光と陰

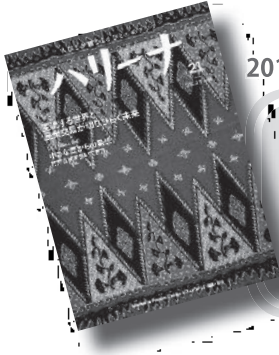
◎大野和興、市橋秀夫、伊藤徹、大橋成子、堀田正彦、堀芳枝、秋山眞兄、吉澤真満子、赤石優衣



2013 年 8 月 21 号

【特集】変貌する世界と民衆交易が切りひらく未来

- * 「民衆交易」は今の世界にどう向き合うのか◎大野和興
- * 人がモノを作る社会を◎伊藤幸蔵
- * フェアトレードは誰のもの?◎鈴木隆二
- * 「これからや」の店先から◎東由香子



2013 年 11 月 22 号

【特集1】遺伝子組み換え作物の生産現場で何がおこっているのか?—ラテンアメリカの農村から◎印鑰智哉

【特集2】変貌する世界と民衆交易が切りひらく未来②

- * 創造的自治的な協同性に立ち戻る◎多々良哲
- * 未来は、小さな地域の自立圏構想にある◎山本伸司
- * この世界をもっと平等にしよう◎アルネル・リガホン



2013 年 2 月 23 号

【特集】変貌する世界と民衆交易が切りひらく未来③

- * 「自由」でも「保護」でもない交易とは?◎大野和興
- * アグリビジネスに対抗するために◎印鑰智哉
- * 農村地域をどう再生していくか—東北の現場から◎疋田美津子
- * 地域の社会づくりが豊かになる民衆交易を◎奥万里子
- * 自給的共同体をめざして◎秋山眞兄



手わたしバナナくらぶニュース 218～223 号

特集ラインナップ.....

- 218 カネシゲファーム視察ツアー開催～日本とネグロスの農民の志がひとつに～ (2013 年 5 月発行)
- 219 エコシュリンプの新工場が完成しました (2013 年 7 月発行)
- 220 オルター・トレード社が 25 周年を迎えました! (2013 年 9 月発行)
- 221 バナナ募金から生まれた新しいつながり (2013 年 11 月発行)
- 222 ミンダナオ島のバランゴンバナナ生産者団体をご紹介! (2014 年 1 月発行)
- 223 東ティモールのコーヒー産地での新たな取り組み (2014 年 3 月発行)



交流事業

「ホンモノの手作りチョコレート」ワークショップ・全国キャラバン

インドネシア・パプア州産のカカオ（カカオマスとココアバター）からチョコレートを手作りするワークショップを APLA で企画し、きまぐれや・吉田友則シェフの協力の元、全国各地でつながりのある方に主催してもらいました。カカオ 2013 年 10 月～2014 年 2 月にかけて、13 カ所で合計 200 人以上の参加者がありました。大好きなチョコレートがどうやってできるかを初めて知った、今まで食べていたチョコレートはカカオの味がほとんどしていなかったことに気づいた、といった感想が大変多く寄せられています。この企画独自の Facebook ページも立ち上げて、情報発信をおこなっています。
※「カカオ倶楽部」<https://www.facebook.com/cacaoclub.kakaokita>



カカオワークショップの様子

グリーンコープ青少年ネグロス体験ツアー

雨季にも関わらず毎日天気恵まれ、参加者全身体調を崩すことなくツアーを終えることができました。今年は 2013 年 7 月 25 日～8 月 1 日の日程で、高校生 9 人、現地の若者たち 11 人、カネシゲファームのボランティア 1 人が参加。共同生活をしながらワークショップを重ね、一緒に劇を完成させました。同ツアー中、オルター・トレード社（ATC）25 周年式典も開催され、ダンスと歌を披露。ATC は、APLA の事業部門である（株）オルター・トレード・ジャパン（以下 ATJ）のパートナー会社として、マスコバド糖やパランゴンバナナの輸出を担っています。25 年間、生産者の経済的自立を図るため、ATC を含め ATJ や民衆取引を取り囲む仲間たちが日々奮闘してきたのと同時に、20 年以上続いている、生産者と消費者の子どもたちの交流が目的の青少年ネグロス体験ツアー。民衆取引に関わる人びとが集まる式典で、子どもたちの一致団結しているダンスを披露できたことは、私たちだけでなく、式典に集まった全員にとっても意味のあることでした。



ワークショップの様子

APLA 福島ツアー

2013 年 12 月 7 日～8 日、福島を訪問するツアーを実施しました。これまで、二本松有機農業研究会の方々や、バナナ募金で交流をしている各施設の先生や子どもたちと交流を重ねてきましたが、現地の人びとの声をもっと伝えたいという思いが生まれた企画でした。参加者は 17 人。ツアーでは、二本松有機農業研究会の方々から農業の現状を伺い、幼稚園の先生や地域のお母さんたちからは子どもたちを取り巻く環境について、酪農家の方々からは事故後の農場運営について話を聞きました。特に、子どもたちが不自由に生活している状況に胸を痛めたという感想が多く、現場の生の声を聞いたことは、参加者にとって福島のことを考えるきっかけとなりました。



バナナ募金でバナナを届けているあすなる保育園を訪問

「ドイツのエネルギー転換と有機農業」スタディツアー

福島原発事故後、これからの地域再生について共に考え、連携と交流を深めてきた二本松有機農業研究会より、かねてから、ドイツの自然エネルギーの現場視察が熱望されていました。その願いを受けて、2014年2月2日～8日にかけて「ドイツのエネルギー転換と有機農業」スタディツアーを開催。BMW 技術協会と APLA の共同呼びかけにより、愛媛大学の村田武先生の案内でバイエルン州のエネルギー協同組合及びバーデン・ヴュルテンベルク州の養豚生産者共同体を訪問しました。バイオガス発電を実践する農家や協同組合を訪問し、農村の地域活性化の要素として再生可能エネルギーが持つ意味や、地域で協働して取り組む仕組みや精神など、学び多きツアーとなりました。



バイオマス発電施設を見学

バナナ募金の送り先保育園との交流

緊急救援事業として始まったバナナ募金ですが、バラゴンバナナを届けるだけでなく、送り先保育園・幼稚園と顔の見える関係を構築することに力をいれてきました。その一環として、聖セシリア女子短期大学の先生と学生さんの協力のもと、2013年10月、福島市にある福島こひつじ幼稚園と教育センターでバナナのワークショップを実施しました。子どもたちだけではなく、先生も楽しみながら、バナナや生産者について学ぶことができました。

2013年9月には、来日していたバラゴンバナナ生産者たちと一緒に、2012年度にバナナのワークショップを実施した原町聖愛保育園を訪問しました。園児にとっては初めて出会うフィリピン人で、いつも食べているバナナをつくっている人。生産者たちにとっては、自分の栽培しているバナナを食べてくれている子どもたち。互いに歌や踊りの交流をした後、一緒にご飯を食べ、有意義な時間を過ごすことができました。おやつには来日している生産者の地域から届いたバナナも登場し、「美味しい!」といった声がたくさん響いていました。来年度も、バナナのワークショップや生産者との交流などを通じた、施設との関わりを継続していきます。



バナナ生産者と交流する子どもたち

アースデイマーケット

毎月一回、代々木公園で開催されている東京朝市・アースデイマーケットに2013年5月から出店しはじめました。生産者と消費者が顔をあわせて対話しながら、モノの売り買いができるこのマーケットで、これまで民衆交易や APLA のことを知らなかった人々たちに向けて、民衆交易のストーリーやそれぞれの品物の魅力を伝えながら、新しいつながりを少しずつつくることができています。

2013 年度カレンダー

- 出店 / 参加イベント
- 出版 / 販売関連
- 国内活動
- 海外活動

4月

- 7-17 □ 東ティモールへ出張
- 20-21 ● アースデイ東京2013 に出店
- 27 ● 映画『カンタ！ティモール』上映会を開催（経王寺、アユス 仏教国際協力ネットワークとの共催）

5月

- 手わたしバナナくらぶニュース218号
- ハリーナ vol.2-no.20
- 11 ●ドキュメンタリー映画『世界が食べられなくなる日』の先行上映+トークショー「世界フェアトレード・デーに考える 未来を考えるために知っておきたいTPPのこと」を企画・トークに参加
- 11-17 □ 東ティモールへ出張
- 15 ■ カカオクッキーの開発のためいわき学園(福島県いわき市)を訪問
- 15.22 ■ 恵泉女学園大学で講義
- 18 ■ 第6回 APLA 総会開催
- 25 ● 恵泉女学園大学・スプリングフェスタに出店
- 26 ● 東京朝市・アースデーマーケットに出店

6月

- 12 ■ 二本松有機農業研究会と社会福祉法人こころん(福島県西白河郡)を訪問
- 13 ■ バナナ募金届け先のあすなろ保育園、福島こひつじ幼稚園を訪問
- 13 ■ アジア学院を訪問
- 18 ■ 武蔵大学で授業
- 22-30 □ フィリピン(ネグロス・北部ルソン)へ出張
- 23 ● フェアトレード月間イベント「いいね！フェアトレード いろいろ？ TPP」@ 国分寺カフェスロー を他団体と協力して開催

7月

- 手わたしバナナくらぶニュース219号
- 24-30 □ オルター・トレード社(ATC)25周年式典行事に参加
- 25-8/1 □ グリーンコープ共同体主催 第17回青少年ネグロス体験ツアー

8月

- ハリーナ vol.2-no.21
- 18-30 □ 東ティモールへ出張

9月

- 手わたしバナナくらぶニュース220号
- 4 ■ バナナ募金届け先の(学)福島わかば幼稚園、福島隣保館保育所、福島わかば保育園、福島こひつじ幼稚園を訪問
- 5 ■ バランゴンバナナ生産者と一緒に、バナナ募金届け先の原町聖愛保育園を訪問
- 14 ■ 第7回 BMW 技術協会基礎セミナー
- 21 ● スローマーケット@清瀬したじゅくに出店
- 22 ● 東京朝市・アースデーマーケットに出店
- 24-10/3 □ 東ティモールへ出張
- 28 ● フォーラム・アソシエ第9回アソシエーション文化祭に出店

10月

- 1 ■ パルシステム埼玉平和国際委員会・ピースインターテマグループ「おいしいコーヒーの入れ方教室」に参加
- 7 ■ バナナ募金届け先のこひつじ幼稚園にて、バナナのワークショップを開催
- 8 ■ アユス仏教国際協力ネットワーク主催 NGO 組織強化に関するワークショップに参加
- 8-9 ■ 「ホンモノの手作りチョコレート」ワークショップを広島県で開催(2カ所)
- 11 ■ 「STAND UP TAKE ACTION ~貧困のない社会に向けて一歩前へ！」にスピーカーとして参加
- 12 ■ 武蔵大学第59回公開講座「市民を動かす社会」で講演
- 20 ● 土と平和の祭典2013 に出店
- 23 ■ ホントのおいしさ知ってみよう！あぶら料理教室を開催
- 23 ■ さがみ生活クラブ生活協同組合で講演
- 24-28 □ フィリピン(ネグロス)へ出張
- 25-28 □ 互恵のためのアジア民衆基金(APF)第4回会員総会
- 27 ● 東京朝市・アースデーマーケットに出店

11月

- 手わたしバナナくらぶニュース221号
- ハリーナ vol.2-no.22
- 2-3 ■ 福島県三春町「収穫祭2013」
- 5 ● アユス仏教国際協力ネットワーク20周年イベントに参加
- 8-9 ■ 第23回 BMW 技術全国交流会
- 11 ● パルシステム埼玉「平和募金団体交流会」に参加
- 12 ■ チョコレート・アライアンス「愛のチョコレート・コレクション2014 プレス発表会」に参加
- 14 ● 先住民族の10年市民連絡会主催「フェアトレードで人づくり・コミュニティづくり」で講演
- 16 ■ 二本松有機農業研究会自然エネルギー部主催の地域エネルギー現地視察会第2回(新潟県村上瀬波温泉のバイオマス発電)に参加
- 17 ● 東京朝市・アースデーマーケットに出店
- 20 ■ 二本松有機農業研究会を訪問
- 24 ● 国際有機農業映画祭2013 に出店
- 27-28 ■ 「ホンモノの手作りチョコレートづくり」ワークショップを長野県で開催(3カ所)

12月

- 1-7 □ 東ティモールへ出張
- 5 ■ 東洋大学で講義
- 7-8 ■ APLA 福島ツアーを開催
- 10-18 □ フィリピン(ネグロス・北部ルソン)へ出張
- 11 ■ 恵泉女学園大学で講義
- 15 ● 東京朝市・アースデーマーケットに出店
- 17-18 ■ 「ホンモノの手作りチョコレートづくり」ワークショップを大阪府・京都府で開催(2カ所)

1月

- 手わたしバナナくらぶニュース222号
- 13 ■ 「ホンモノの手作りチョコレートづくり」ワークショップを東京都で開催
- 21 ■ 二本松有機農業研究会自然エネルギー部主催の地域エネルギー現地視察会第4回(山形県米沢郷牧場のバイオマス発電計画ほか)に参加
- 26 ● 東京朝市・アースデーマーケットに出店、「愛のチョコレート・マーケット」企画・運営
- 28,29 ■ 「ホンモノの手作りチョコレートづくり」ワークショップを東京都で開催(29日は、開発協力協会と共催)

2月

- ハリーナ vol.2-no.23
- 1 ■ しらたかノラの会と共催で遣伝子組み換え作物に関する勉強会を開催
- 1-2 ■ 「ホンモノの手作りチョコレートづくり」ワークショップを山形県で開催(2カ所)
- 2-8 □ 「ドイツのエネルギー転換と有機農業」スタディツアー
- 3 ● パルシステム埼玉・平和募金贈呈式
- 4 ■ 学芸大学付属高校で授業
- 4-14 ● 「もうひとつのチョコレート展2014@ cafe slow」開催、催し中に「ホンモノの手作りチョコレート」ワークショップを開催(2月6日)
- 14 ■ JIM-NET主催の「絆ぐるぐる展」にスピーカーとして参加
- 23 ● 東京朝市・アースデーマーケットに出店
- 28-3/8 □ 東ティモールへ出張

3月

- 手わたしバナナくらぶニュース223号
- 7 ■ 新潟総合生協・生産者総会に出席
- 10 ■ 二本松有機農業研究会自然エネルギー部主催の地域エネルギー現地視察会第5回(埼玉県小川町のバイオマス発電ほか)に参加
- 16 ■ セミナー「『バナナと日本人』のその後—私たちはいかにバナナと向き合うのか？」
- 21 ■ 二本松有機農業研究会・「日独再生可能エネルギー懇談会」に参加
- 25-26 ● フェアトレード国際シンポジウム2014 に出店
- 29 ● 東京朝市・アースデーマーケットに出店
- 29-30 ● 開発教育協会主催「教材体験フェスタ」に出店

フェアトレード事業報告

APLA ネットショップ

- 5月 ブレンドコーヒーの取り扱い終了（箱のみ引き続き対応）。
- 8月 期間限定でマスコ・ロックを販売。
- 9月 クロタンサンの販売開始。
- 10月 インスタントコーヒーは、ペルー産からペルー・ウガンダ・ドミニカ産のものに変更。
- 11月 カカオクッキー wa の販売開始。
- 12月 チョコラ デ パプア（オーレ）、カカオニブ、カカオマスの販売開始。東ティモールのドリップバッグコーヒーは、マウベシ産からエルメラ産のものに変更。
- 2月 生チョコレート・トリュフ、三里塚ワンパック野菜の玄麦うどんの販売開始。

2013 年度（2013 年 4 月～2014 年 3 月）	
ネットショップ	8,860,478 円
イベント	939,836 円
事務所販売	1,269,043 円
手わたしバナナくらぶ	2,119,900 円
手わたしエビくらぶ	411,785 円
ギフト（夏・冬）	197,716 円

※カカオクッキー wa の売上の一部を福島県自然エネルギーの応援として寄付する予定です（20400 円）。

各種コーヒー

2012 年度と比べ、コーヒー全般の注文数が増えました。中でも、今年度はよりどりコーヒーよりも各コーヒーのセット注文が増え、固定のお客様がついてきています。特に、東ティモールは大人気です。

マスコバド糖関連商品

価格変動が多い年度でしたが、マスコバド糖の注文数は、2012 年度よりも増えました。以前は APLA の会員の皆さんの注文数が多かったのですが、今年度は一般の方からの注文の方が上回りました。しかし、加工品は、特にかりんとう・黒みつの売上は伸びませんでした。

グランドの塩関連商品・オリーブオイル

単月で見ると、2012 年度に比べて注文が多いものはありましたが、1 年間の総数は伸び悩みました。

チョコレート

広報を早めにしていましたが、販売が遅れてしまったため、思うように注文数が伸びませんでした。来年度は、チョコレートのシーズンに商品が販売できるようにしていきます。

その他

今年度は、チョコレートの原料を使ったクッキーや、材料となるカカオマス、カカオニブといった商品の発売も開始しました。福島の有機綿を使用した製品も取り扱い、商品のラインナップが豊富になりました。来年度は、新しい商品の広報もしていきます。

夏と冬のギフトセット

規格を見直しましたが、注文数は思うように伸びませんでした。来年度は、ギフトセットの実施について検討していきます。

手わたしバナナくらぶ

2013 年度の新規入会者数は 8 人。現在、65 人の内、定期的に頼んでくださるのは 50 人程。年々会員数は減ってきていますが、その分新しく入会してくださる方もいます。会員の高齢化もあり、これから共同購入という形で注文して下さる方が更に減ると思われるので、来年度は、違う客層に向けたアプローチをしていきます。

現在会員数 65 人 (74)

年間出荷件数（月平均）

20kg	10kg	6kg	3kg
23 件 (33)	129 件 (142)	158 件 (162)	211 件 (220)

※ () 内は前年度

エビくらぶ

昨年度の反省を活かし、規格の見直しや広報を工夫したところ、エビの販売価格が上がったにも関わらず新しいお客様が増えました。簡易包装の取り入れなど経費節約も実施し、全体の販売価格を落とせるよう努力しました。これからも多くの方にご利用していただけるよう、改善していきます。

現在会員数 7 人

	A コース	B コース	C コース	D コース
出荷件数（4～6 月）	12 件	0 件	6 件	
出荷件数（7～3 月）	21 件	21 件	15 件	9 件

緊急支援報告

2013年度は、以下の緊急支援を実施しました。

- ① 2013年10月にフィリピン・ボホール島で発生した地震の緊急救援募金を受け付け、オルター・トレード社（ATC）を通じた被災地支援が実施されました。
- ② 2013年11月に発生した台風30号（フィリピン名・台風ヨランダ）の被害に対して、緊急救援募金を受け付けました。基金は以下の二通りの支援活動に充てられます。
 1. ATCを通じたバラゴンバナナ生産者の復興支援（ネグロス島、パナイ島）。
 2. レコレトス会（スペイン系の修道会）を通じたネグロス島北部、セブ島北部、パナイ島への被災者支援。具体的な支援活動は、KF-RCを含むネグロス島内のNGOや教会グループ、ボランティアグループが「ASIN(Alternative Solidarity Initiative Network)」を結成し、協働で支援活動が実施されます。

◆①と②の2013年3月末までの支援金額と送金状況は以下の通りです（4月にも入金がある旨の連絡があり、残りの金額の送金は4月を予定しています）。

【支援金合計】：38,819,596円

【送金状況】（2013年1月29日、2月18日の2回に分けて送金）：

- ・ATC（ボホール地震・バラゴンバナナ生産者への支援）：13,000,000円
- ・レコレトス会（ASIN）：12,324,010円
- ・送金額計：25,324,010円

③バナナ募金（2011年11月～）

2011年3月の福島第一原発の事故後、子どもたちが少しでも安心・安全な食べものが食べられるようにと、農薬を使わずに栽培されているバラゴンバナナを福島の保育園・幼稚園に定期的に送る活動を2011年11月より実施しています。緊急救援事業として始まった取り組みのため、当初は1年間を予定していましたが、福島の現状がなかなか変わらないということ、そして、新しく生まれたつながりや関係性を大切にしたいため、来年度も引き続き活動を継続します。

募金状況

年度	金額	内訳
2011年	1,448,395円	海外からの支援金 645,512円 国内の募金額 802,883円
2012年	864,000円	国内の募金額 864,000円
2013年	966,963円	国内の募金額 686,963円 助成金（日蓮宗あんのん基金） 280,000円

バナナ発送状況・その他経費内訳

年度	金額	内訳：バナナ発送重量	内訳：その他
2011年	459,299円	404,999円（1,162kg）	54,300円（チラシ作成費、出張費等）
2012年	1,076,755円	991,646円（2,884kg）	85,109円（資料発送費、ワークショップ出張費経費等）
2013年	1,304,389円	1,265,011円（3,427kg）	39,378円（チラシ作成費、資料発送費、出張費経費等）

※募金額の最大10%を事務経費として活用。

発送先保育園・幼稚園

いわき市2件、南相馬市1件、二本松市1件、郡山市2件、福島市14件 合計20件

<他団体とのネットワーク>

2011年3月の東日本大震災以降、他団体とのネットワーク活動を進めています。

- ・三春花見東京実行委員会：アジア太平洋資料センター (PARC)、日本国際ボランティアセンター (JVC)、福島「農と食」再生ネット
- ・エネルギー勉強会：アジア太平洋資料センター (PARC)、アーユス仏教国際協力ネットワーク、開発教育協議会 (DEAR)、日本国際ボランティアセンター (JVC)、メコン・ウォッチ
- ・ATJ、アーユス仏教国際協力ネットワーク、日本イラク医療支援ネットワーク (JIM-NET) とともに、福島を応援する活動を継続中。2013年度は「カカオクッキー Wa」の商品開発まで実現しました。定期的に会合も開き、福島での活動状況などの情報共有をしています。

<2013年度の賛同・協賛>

- ・5月29日 PreTICAD 国際シンポ&市民社会ラウンドテーブル
- ・オスプレイ NO! 「普天間基地即時閉鎖、辺野古やめろ、海兵隊いらない」 沖縄第4期意見広告を!
- ・モザンビーク・プロサバナ事業に関する国際共同声明
- ・日印原子力協力協定に向けた交渉停止を求める要望書
- ・TPP 交渉に関する市民参加の説明会開催ならびにパブリック・コメント実施の要請
- ・友産友消 1万人チャレンジ (呼びかけ団体)
- ・日本ブラジル原子力協定反対の団体署名
- ・【緊急署名】 これ以上、海を汚さないでください、政府は汚染水を止めることに集中してください、規制委・規制庁は、原発の再稼働審査を中断し、汚染水対策を優先してください
- ・日本・ブラジル・モザンビーク政府の大規模農業開発事業「ProSAVANA-JBM」に関する緊急声明～事業の早急なる中断と抜本的な見直しの要請～
- ・秘密保護法案に関する NGO の要請への賛同のお願い
- ・「トルコへの原発輸出に道を開く原子力協定に反対を！」
- ・エシカルケータイキャンペーン
- ・TPP に関する情報公開とパブリックコメントおよび 市民向けの説明会の開催を求める政府への要請

<会員数報告> 2014年3月31日時点

	個人	団体	合計
正会員	129	37	166
賛助会員	115	14	129
合計	244	51	295

<組織体制>

- 理事：秋山真兄 (共同代表) 疋田美津子 (共同代表) 吉澤真満子 (事務局長)
市橋秀夫 上田誠 大野和興 鹿毛優子 廣瀬康代 堀芳枝 (以上9名)
- 監事：近藤康男
- 評議員：安藤丈将 奥万里子 出口雅子 橋本順子 弘田しずえ 前島宗甫 幕田恵美子
箕曲在弘 持井啓吾 (以上9名)
- 名誉顧問：前島宗甫
- 事務局員：吉澤真満子 (事務局長) 野川未央 (専従) 赤石優衣 (専従) 大久保ふみ (アルバイト)
大橋成子 (非専従)
- 現地担当デスク：津留歴子 (インドネシア)

<総会・理事会・評議員会>

- 総会：第5回総会 (2013年5月18日)
- 理事会：第17回 (2013年9月7日) 第18回 (2014年4月12日)
- 評議員会：第11回 (2013年9月7日) 第12回 (2014年2月15日) 第13回 (2014年4月12日)



特定非営利活動法人,APLA 2013 年度事業報告

〒169-0072 東京都新宿区大久保2-4-15 サンライズ新宿3F

《tel》03-5273-8160 《fax》03-5273-8667

《E-mail》info@apla.jp 《URL》http://www.apla.jp

《表紙写真》カネシゲファーム・ルーラルキャンパスのスタッフと第4期生研修生たち